

り、ゲイム、リリーたるを以て満足し、支那の政體なり、一切の行政組織なりをなし、而して文物、制度の確立と共に自ら退くことなきを、形勢不穩の原因となるべしとて、我等が列強たる所のものも、又た自から解決せられて、支那もよく列強の希望する如く、改善せらるゝに至るを得んか、

我等は今日支那の状態に基き、形勢不穩なるべき原因を見、之を除去し支那をして平和の巷たらしめん必要なる方法の一端について所見を茲に説きたるのみ、識者の教を請ふにこれを以てし、敢て之を記せるのみ、豈に他あらんや、

時事雜錄

急轉後の時局

▲袁帝の得意時代▲

人情反覆若反掌 朝號討袁夕討黃 多大の希望を有ち、大江の決するが如く起ちし討袁軍は斯く勢日に盛なり、蜀天踏地諸領袖は身を容るるに所なく再び海外に亡命の客たるに至れり

南方の形勢の如くなるを以て北京政府は愈々固を致し討袁軍に對する態度は益々強硬を極め中央政界は實に袁の願使のまゝとなり、即ち熊希齡の熱河都統より入りて所謂超然内閣を組織せんとせる或は國民黨を威壓して討袁軍の領袖たる黃等と關係なきを表白せしめて之を殆ど瓦解の域に陥らしめ議會に於て御用黨の絕對多數を占めしが如し、或は社會黨の解散を命ぜらるが如き真に秋霜烈日の概あり

に應じて起ち一路成都を望んで殺到しつゝあり(熊は國民黨員にしてその幸ゆる第三師は第五師と稱せしものなり)然れども時機已に遲し彼等は成功せばより四川を動かし得る事あらんも之を以て直ちに大局を轉動せしむる事は至難なり否な不可能なり

嗚呼大勢已に去れり彼等が驅逐すべかりし鼻雖は反つて確實に政權を把握する事を得たり、而して彼れが軍隊は江南諸省に亘りて討袁軍の遺すなきを期しつゝあり、思ふに將來此の種の不平等分子は各地に渡りて蠢動せんも袁の實力は當分之分を統一して少康を保ち得べきか、さらば形勢は如何に、請ふ之を次の諸項に見よ、

動亂聲中の現象

一國の現象は其國民の思想、品格の反影なりとは誠否むべからざる事實なり只だ前清時代は專制の世なりしかば餘り暴露し易かりざりしのみ、然るに支那は一昨年来民國を建設し一時に數千年來の歴史を根柢より覆へしたる觀あり爲めに自由平等の名も事實は放任無忌の媒介物に轉化し恰かも七國時代の如き觀を呈し歸一する所なく國民の道德は全く頹廢し支那國民の思想品格は積極的に遺憾なく發揮せられたり、我等は支那の現象中由來殊に著し感ぜしは憤世の士が此民國の世に當り專制政治を謳歌するものあるを耳聞せし一事是なり而かも此思想が今次の動亂によりて公然此際クローズアップナゴレシの出世を望むものあるに至りては如何に共和政治の弊に手摺り居りしかを想見すべく實に見通すべからざる現象と云ふべし、尤も今次の動亂以前の專制謳歌者は國民黨の見事に恐懼し敢て公言するものなかりしかば之を視て上海製造局の一戦以來討袁軍日に非にして南京保たれず首領南竄し江西德安陥り張勳

前鋒已に揚州に達し倪嗣冲支隊正陽關を下し廣東亦陳炯明の逃走となり大勢事トすべく袁世凱に歸趨せんとする所謂大事主義に左右せられ迄ならんも這是支那國民心理の無對抗力の然らしむる所にし、專制思想の有無は没交渉なり然りと雖も我等は身元來外國人にして局外に立つ、今敢て支那に共和の向き不向きを云ふるにあらざる只此思想の露露せらるるを介紹するのみならず國民の思想品格より視て飽く迄支那思想を大本とし共和を採用するが非か或は根柢より覆へし之を採用するが是か此れ又別問題なり要するに國民の思想品格中何處にか缺點なければ斷じて專制政治を渴望することなかるべし我等の此評論を試みるは一部支那人士に接談し感應したるも昨今の支那新聞論調に視て云ふ、論議なきにあらず今參考に當地時報の所論を左に掲ぐべし、

姑息の手段を用ふべからず

共和成立の秋に當り復た豆箕相煎下の慘を呈せるは誠に國家の大不幸なり現下の我國は正に大英斷を以て亂黨を撲滅すべき時に際せり然れども側聞する所によれば政府亂黨の兩方面に對し調停の説を進むるものありと云ふ不幸にして之を事實とせば實に危険なり蓋し政府が姑息に奸を養ふは國民の付託に負ふを以て自ら亂黨は南北政府成立以來山岳黨を以て自認し他黨と併立するを願はず吾人當時より南方兵禍の恐るべきを知れり而かも政府は餘りに彼輩を寛待し過ぎたり吾人は此際調停甚だ不可なるを説き目前の苦痛を忍ぶも亂黨濶平に對し政府の高壓に出でんことを希望するものなり然るに專制の一言は今日治を云ふもの、道ふを履しとせざるが暴民憤怒の後を受けしは開明專制の政府を産出するは自然の數なり聖

者、雖も己を得ざる場合あり、乃ちルイ十六世獄せらるるの後、ナポレオン出でテイルス帝獄せらるるなり且つ、世界競争の秋は尤も必ず其民に進むるに軍國民の教育を以てすべし庶くは強果敢の精神を養成し得ん是れ時勢の要求なり、願くは我政府は初意を堅持し禍亂の救平を速かにし再び寛大の虚名を博して更らに國民に實禍を與へざらんことを

九江方面の戦況

▲南軍建昌に退く▲

七月二十五日湖口砲臺陥落してより北軍は急激に進んで賽湖以東廬山以北の地帯より殆ど南軍を一掃し別に一部隊をして鐵道線路より沙河方面に進せしめたるに吳城鎮の本營にありし李烈鈞は自ら德安に出で、全軍を督し二十六日沙河附近の陣地に引揚げて悉く德安に集中せしめたり北軍は多少の南兵を驅逐しつゝ、三十日馬廻峯の險を越へ德安を北に距る六哩の地點迄迫りしに絶好の陣地を占めたる南軍は獅子奮迅の勇を鼓して奮戦し激戦十數時間漸次逆襲に轉じ第二聯隊及第六聯隊の北軍に對して殺倒し來り三十一日北軍は多大の死傷を蒙りて退却を初め德安を距る十三哩の蘭橋迄退せられたり之に於て段芝貴將軍は更に總預備隊中より二個大隊の精銳を出して應援せしめ自ら軍艦に乗じて南康に向ひ德安の右側背を衝かんとせるの陣形を立てたれば追撃し來れる南軍は早くもそれと察して軍を返へし北軍は又々三三個大隊の増援を得て彈藥糶列と兵站部を供ひ馬廻峯を越へ一舉に前敵の趾を雪がんとす八月二日段芝貴は小蒸汽船戈安號にて供陽湖より南康に着し一兵に血りすして南康に上陸す南軍は一日夜より全軍の退却を始め二日德安を棄て、建昌に入る二百人より成れ

者、雖も己を得ざる場合あり、乃ちルイ十六世獄せらるるの後、ナポレオン出でテイルス帝獄せらるるなり且つ、世界競争の秋は尤も必ず其民に進むるに軍國民の教育を以てすべし庶くは強果敢の精神を養成し得ん是れ時勢の要求なり、願くは我政府は初意を堅持し禍亂の救平を速かにし再び寛大の虚名を博して更らに國民に實禍を與へざらんことを

上海出帆(漢口行)

毎週月夜半浦東棧橋ヨリ發
毎週土夜半郵船棧橋ヨリ發

上海支店
電話 浦東棧橋 四七五
電話 內陸 一八七四
電話 監督 一〇八七

漢口宜昌線 一ヶ月六回
漢口湘潭線 一週二回
漢口常德線 一週一回
九江南昌線 一月三回

社會式株 船汽清日

大倉組

上海九江路第拾七號
株式會社

電話 輸出、石炭 一八〇六
輸入、會計 二〇八六
支店長室 三〇一四

○本店 東京市銀座通二丁目 七番地

○大倉益昌碼頭(浦東)事務所 (電話三〇七九)

○支店及出張所 大阪、橫濱、橫須賀、神戸、吳門、佐世保、舞鶴、沼津、京城、臺北、臺中、打狗、天津、漢口、上海、大連、北京、倫敦、紐育、漢堡、濠州、

滬寧鐵道 後二特別急行 後七〇常州行 鎮江 前一二三急行 前四四普通通車 後五五特別急行 後六六常州客車 後七七八急行 後八八常州客車 後九九特別急行 後一〇〇常州客車

る後衛隊は且つ戦ひ且つは退き行く、列軍を粉砕して德安を去り追撃し來れる北兵の一部隊を地雷火に誘致して大損害を與へたりしも德安は自然北軍の手に入り多數の軍需品其獲る所となり之の前後して德安の左翼たる瑞昌も亦北軍の佔領する所となり、李烈鈞は建昌に據らん、吳城の水路は後を以て堅く閉鎖せり、此時南昌は歐陽城外の人民に立退を命じ永久的防禦地を築造し城壁には砲列を布き南軍は愈々南昌を死守せんとするもの、如く三十三日湖南省醴陵を出發せる二千の歩兵は機關銃十六門を携へて八月七八日頃萍鄉より南昌に到着の密なり南昌城内の人心は頗る洶々たり云ふ

●鎮江の兵亂

楊州の徐寶珍中立を取消し後政府の命に歸趨してより兵を鎮江の對瓜州仙女廟方面に出して鎮江を窺ひつゝありしが瓜州支隊の大一次隊は漸く兵備に不足を告げ鎮江軍が先月未獨立を取消したるにも拘らず袁政府の命に依て鎮江に渡らんとす宣言し人を鎮江に派して鎮江の兵備を以て瓜州支隊を給養せよと迫りたるに商務總會は戰亂の起らん事を恐れ揚州兵の渡江を停止せし事を要求し然日瓜州の大隊長申正邦は之を容れたり然日三日の早曉申正邦は部下を率ひて鎮江に上陸し先づ寶蓋山を占領して守兵を追ひしかば鎮軍大に怒り焦山其他の砲臺より發砲し楊兵敗れて高資方面に退却せり之に於て鎮江商界は大に動搖し紳商より饋金して金八萬兩を大に鎮江軍に贈り袁政府の命を受けたる楊軍の指揮に屬し袁政府の城する楊兵に妨害を興へざらん事を要求したるに鎮江兵は容易に應ずる色なきより鎮江商業會議所は人を上海に派し程都督の命令を下して前回鎮江の旅團長たりし顧忠琛氏を起して仲裁せしむる様願ひ

●廣東の形勢

廣東は國民黨の巢窟なり、討袁軍の據て以て最後の根據地と爲さんとせる所なり、故に討袁軍が南京、上海に失敗するや所謂討袁軍に關連せる國民黨の諸領袖は袂を聯ねて廣東に赴き以て顏秀の挽回を策せん、何ぞや、彼等の志は茲に於ても違へず、何ぞや、彼等が鐵城、頼みし都督陳炯明も亦危險其身に攻まらば此の地に居る事能はずの四日亡命の客として香港に逃れ僅かに其の身を全ふするの已むを得ざるに至り、

元來廣東には鍾鼎基の卒ゆる第一師(一)肇基の第一旅と陳元沐の第二旅と蘇慎初の卒ゆる第二旅と葉の第三旅と羅揚の第四旅)及び張我權の卒ゆる獨立第五旅、陸景華の統轄せる虎門長洲各要塞兵其他省内各地に分駐せる舊軍ありて約六七師の兵力を有せり、獨立の初め陳炯明は此等の將領を會して其の可否を議し殆ど強請的に獨立を宣言したり、然れども其後長江各地に於ける討袁軍頻りに振はす江蘇の内部獨立を取消するの續出し一般の形勢日に非なる者有るに加ふるに省内一般の民生は亂を厭ひて輿論之に反對せしを以て獨立取消しの機縁約の間に進れり、此の時に當り廣西の龍濟光は其の兄龍觀光と共に斷然討袁軍に反對して北京政府擁護の旗幟を明らかにし政府亦彼等を廣東正副護軍使に任じたり、彼等は部下の勁旅を率る梧州より流に順いて廣州省城を望んで殺到し來れり、茲に於てか觀望の態に在りし第二師長蘇慎初は直ちに陳に叛旗を翻へして起り討袁軍の旗幟は一朝にして討陳軍と變じたり

先き岑春煊は政敵袁世凱に對する反感と自己の討袁軍大元帥に推されたる關係より討袁軍の爲めに盡きざるを得ず故に彼は江蘇各地の危ふしと見るや直ちに南下して自己の舊部たる廣西の陸榮廷及び龍濟光兄弟を説き以て討袁軍の爲めに盡くさしめんとし七月未廣東に入らんとするや先づ陸、龍等に宛て大要次の電報を發したり、

袁世凱は九江に兵を進め人民を荼毒し共和を破壊せり袁は實に罪魁なり、頃南方七省兵を起して袁を討たんとす、人心已に去る其の敗るや疑なし、所謂中央を擁護する者は必ず中央が法律を遵守し人心歸嚮してこそ擁護すべし袁氏の如きは人を殺して法を犯し借款して國を賣る者にて天怒人怨何ぞ之を擁護すべけんや、時勢此に至る袁の罪大贖す若し再び中央を擁護するを以て詞とせば眞に賊臣に從ふなり三君は余と多年事を共にし心肝相照せり余は公理人道及び國家の爲めに袁氏の民國を斷送するを坐視するに忍びず、頃廣東に至り陳都督と討袁軍の方略を議し廣東は三大技隊に分ちて出發するに決したり、三君は素より大義を明かにし共和を保障す、斷じ袁氏の横行無道に任すべからず、又討袁を宣布せり、且つ鄰省は已に皆々討袁を宣布せり、獨り廣西が袁氏に孤忠を効すの理なし、苟も選延決せざれば恐らく中央も軍費軍略を支給する能はず省内更らに紛争を惹起し反て袁氏に利せん、廣西廢棄せば誰れが其の咎に任せん、袁世凱と共和は三君と國民と袁氏は兩立せず、余は三君の返電を俟ち廣東着後直ちに家郷(廣西)に反へり相偕に賊を討たん余は三君と生死利害を共にす十餘年の舊交必ず能く相信せん云々

其の理論友誼に訴へて舊部たる陸龍等を動かさんとせる辭に於て盡せりと云ふべし然れども彼れは張鳴岐鄭孝胥等の如き好幕客にして謀士を失へると同じく此等の舊部をも再び自己の下に致すこと能はざりしなり、而かも斯くの如き岑氏を以て猶現下の袁に拮抗し得る支那第一流の人物と贊辭を呈し居る本邦新聞の迂闊なる驚くの外なし

龍濟光等は岑が廣東に入るの前二日(七月二十七日)政府及各省に電して曰く今や全國獨精治を圖り漸く澄清を致さんとせるに狼子の野心漸く復た熾ならんとす、武漢亂黨の難甫めて平ぎしに已撤の江西都督李烈鈞等湖口に潛匿し黨徒を嘯聚し公然亂を唱ふ勢必ず南北を糜爛せしめ分割を製造するに至らん我首罪魁實に我が四億萬同胞の共に棄つる所なり、余廣州光復後隱忍二年なり梧州に駐して師旅を簡練し用て不庭の討に備へて枕にする事日久しし脾肉の歎けきなり部下の健兒皆な決戰を思へり、長兄觀光今や桂林の兵を與し次兄緒光は曾て雲南旅團を司れり同じく憤激を深くす、願くは大總統我が昆仲を聯ね我が戎行を整へ職力前驅するに得せしめよ、誓て兇殘を殛し以て天下に謝せん云々

龍等の決心已に此の如し岑が猶十餘年の舊交、舊部を云爲すとも何ぞ其の決心を翻さしむる事を得べきや

事茲に至る岑は一指を廣東に染むる事を得ずして陳炯明と前後して香港に逃れ更らに日本を経て米國に去らんとして能はず再び香港に止まり南洋に通るもの、はむを得ざるに至れり、嗚呼當年政界一方の霸者として世の視聽を傾けしめし彼も老來遂に事を誤り敗殘の老驄を風塵萬里の外に托せんとす我等は彼れの悶處を思ひ失脚せる現状を偲べば一掬同情の涙

● 煤 炭 ● 製 紙 ● 電 銅 ● 花 紗 ● 布 正 ● 湖 北 水 泥

五五路川四海上

店支海上司公菱三

(四六九二 ● 二九一 話電)

本店 東京日本橋區町六番地

栗生 武右衛門

諸公債株式 定期現物賣買取扱 有價證券信託

栗生洋行海上支店

支配人 川岸 藤太夫

經理 朱 葆 三

九江路壹號A 電話貳〇壹六 貳貳六

なき能はず

▲糾紛せる廣東

陳炯明去れる後の廣東は彼の過激たる権柄争奪の巻ご化し秩序猶紊亂し同地と關係密接なる英國は更に四百の警備兵を派するに至り初め陳炯明の去るや省民は秩序保持の爲め第二師長蘇慎初を擧げて都督たらしめたり而して第一師長鍾鼎基の部下は之に嫌焉たらず茲に軋輒を生じ更らに陳炯明の舊部の軍隊隠然之に抗して端を啓き戦雲省垣を蔽ふに至れり、而して蘇慎初は勢の不穩なるを見都督を辭し獨立第五旅長たる張我權を之に代へたり、然れども北京政府は龍濟光を廣東都督兼民政長に任じてこの亂局を取捨せしむるに決し龍等は約一師の勁旅を従へて肇慶附近に進迫し來れり廣東は今や恐怖に満ちり元來龍は廣東に在りて德望乏しと稱せらるるにより任に到るの日に龍を收拾し反對分子を綏服し得べきや否や張我權は自ら都督として號召し居れり、今後の廣東は頗る傾注に價すべきものあり

▲領袖の東奔南走

廣東の形勢斯の如きを以て先きに廣東に入り再擧を策せんぞせし孫逸仙等は到達する事を得ず中途福州より台灣に渡り更らに日本に向つて去れり、而して香港に逃れたる陳炯明は身を以て新嘉坡に逃れたりと云ふ、故に討袁軍の本據斯の如く支離滅裂の狀態を呈せるにより吳淞、安徽、江西、湖南の諸省に互る討袁軍も勢熱伏の外なかるべし遼莫京漢津浦の二道により出動せる北方の勁旅は長江各地に厚集されれば南京に入るも且夕に在るべきか、

●胡都督程德全を痛責す

我等は今回の動亂に對し身重鎮に坐する程德全が討袁軍に感嚇せられて獨立を宣言せる無節操に對し已に内股主義の絶

頂なりとなし責むる所ありしが其後四川都督胡景伊は同郷人の故を以て殊に憤慨し程の仍は上海にあるを手強く痛斥する所ありたり今其大意を登載すべし

公は南方の重鎮に坐し名望ありしが江西の亂は已に過ぎたり而かも公は仍は上海に在り自ら計る誠た善と云ふべし國家が官を設け職を分つは其和專制に論なく守土司民の責あるは云ふ迄もなし將軍節に死すは古訓なり公は身軍符を領し大計を維持すべきに今回の不始末は何たる體たらんぞや商人何を逆に従はんや南京と江西は相距る稍遠し而かも第八師は麾下に屬し別に他軍の過るなきに公は獨立を宣言せり公は前清にありて大官を勤め

民國に入りて復た重寄に膺れり此身已に富貴に飽けり抑も何の愛惜する所ぞ且つ公は春秋高過漸く木に親む孤注一擲、死榮幸あり何ぞ竟に亂黨の威嚇によりて遂に無窮の令名を犠牲し垂歿の老命を保持せるや、從前國事に奔走せる吾四川人の國の爲めに死せるもの多し而かも皆青年なり曾つて生人の樂を領せず獨り桑梓の差たるのみならず死者の爲め笑はるるを慮らざるが余も亦四川人なり公の失を視て愧憤交集り云ふ能はざるに至る、若し各省同官をして皆公の轍を踏ましむれば國將に國たらざらんとす今公の爲め計らば宜しく南京に歸り力めて補救を圖るべし過を改むるは聖賢の諾する所なり若し大平宰相に復せば世は廣しと雖も公は廻翔の餘地なきなり迷途末達からず禍福兩端公自ら之を圖れよ

文苑

越遊脩禊草(接前)

曹衛史、曾誦

著作権保護コンテンツ

上海戰事餘錄

●國民黨派新聞の厄難

國民黨派の機關紙たる當上海の民立報民權報、中華民報、民強報は去る四日江蘇都督及民政長兼會辦江蘇軍務行署の通令によりて不幸にも亂黨の爲め異説を吐き民國を破壊するものとして其發賣を郵送を差止められたるのみならず一般の購讀をも禁せられたり之に就き其始末を叙し以て該四紙の態度を示すべし

▲地方有司の布告

江蘇湘滬警察廳長統領警備隊程は去四日左の如き布告なせり
去る二日江蘇都督民政長兼會辦江蘇軍務行署の通令を奉するに、新聞報紙は輿論の機關なり宗旨純正、議論平允にあらざれば人民の心理を代表し政治の進行を促進するに足らず乃ち民權、民立、民強各報は専ら亂黨の爲め異説を鼓吹し民國を破壊し事實を捏造し是非を顛倒し口に任かせて粟肆を開き忌憚なし速かに發賣を嚴

東京海上保險會社
明治火災保險會社
日本火災保險會社
共同火災保險會社
東京火災保險會社

代理店 三井洋行

上海四川路 文路第壹號 (電話一八一七)

申込所 山口商店 (電話三四五九)

資本金 三百萬圓

日本上海火災保險株式會社

上海支店

上海英租界路口A第九號 (電話一三五六)

諸積立金 貳百參拾萬圓

大石橋營口間

禁し、人心の淆亂を免れざるべからず、茲に訓令し該廳長をして遵照せしむ凡る民権民立、民強及亂黨各種の機關紙は均しく發賣を禁止し同時に人民に對し購讀禁止の旨布告すべしとあり今後各賣報人は之を遵照し亂黨の各種機關報賣賣を禁止す人民も亦此等の報紙を再開するなく人心の淆亂を免るべし是れ至要なり切に違ふ勿れ特此に布告す

▲郵務總辦の通知

上海郵政局は如上の訓令に基き前記各社新聞の郵送停止に決し左の如き意味を以て之れを通知を發せし

江蘇民政長八月二日の來函に接したるが貴新聞郵送の禁止あり本局は國家の設立に係り省長の命令は理應に聽從すべく己を得ず郵寄を停止す即ち報紙を本局に送らざらんことを乞ふ事定るの後仍は郵寄すべきや否や再び函告せん

此封禁然たる訓令に對し同じく文壇に立つ袁派の諸新聞は別に何等の評言を加へざればも當該各社は髮耳に水大に憤慨し民權報は布告發表の翌日言論の自由刊行の自由、書信の自由は載せて約法にあり今本報は民權を鼓吹するの故を以て惡政府惡官僚の摧殘に遭へり中華民國は一無法の國とならざるかと云ひ越へり八日に至り該報は社論として社長周浩署名し此次の舉は逃官應德閣の指使か應德閣は袁の意を受けて之を出せしかんは兎も袁氏の報に對する言動は宋案發表の際十萬金を以て本報を買収せんせし本報は頑として動かざりしが間もなく工部局の言論取締の通告を受け主筆逮捕せられたるも幸に外人公理を明かにし袁の爪牙とならざりし今や此理に遵ふ本報は民權主張を以て立つ袁氏は專制を復活せんとするもの、彼が一年來の違法、殺人、賣國の手段に對し本報が極力攻撃するは當然なり英國革命の時に當り危哉國

憲の敢て稱する報あり而もチャールズ之を封禁する能はざりき佛國大革命の時に當り正義報名づくものあり而かもシヤール十世も亦之を封禁する能はざりき蓋し當時チャールズ、シヤール十世罪惡國中に充滿したるを以てなり今袁氏の罪惡に此充したる本報は禁賣を蒙りたるも人民の同情あり適以て袁氏に對する人心の怨恨を深くするのみ此の如して民國は

亡びざらんことを欲するも得ざるなり本報は讀者諸君ご息壤の誓を作さん民賊未だ除かざれば責任未だ己ます共和未だ固からざるも辭せざる所なり此言に違ふあらば請ふ諸君は民權を以て我を視よ

向は民立報は布告發表の翌日時評欄を以て憤激を洩せり其憤激の情手に取りて見るが如し

應德閣は命令を發して本報の郵政持許權を取消せり聞純進歩黨某々の計畫する所なり本報に封禁せざるの封筒を與へたり嗟汝民賊、計亦毒矣、本報は久しからずして特に國民と別れんとす但し民立の軀殼は死すと雖も而かも民立討賊の精神は則ち死せず且東門に懸け請ふ之を他日に驗せん

向は北京に於ける國民黨機關紙、民民主、亞東、日、新聞は軍警の干渉により停版の已むなきに至りしが其他も亦運命近しと報せらるる今又國民黨の根據地上海に於て此厄に遭ふ彼等の首領南寶立脚を失せる今日又豈方なるべし

上海鎮守使の開署

七月廿六日上海鎮守使に任命せられたる鄭汝成は上海地方戒嚴の必要上軍事外交交通電信等一切を處理する事となり都督程德全は管内の地方官に移牒して鄭中將の任命を告げ其命令に遵ふべきを命じ鄭汝成は布告を發して鎮守使行署を軍艦海

籌内に置き先づ第一に上海の秩序回復に從事すべき事を宣言し敗殘兵の招撫を行ひつゝあり八月七日公布せる保安條例左の如し

- 一、軍器其他の危険品を私藏するものは死刑に處す
- 二、匪類をかくまひ届出でざるものは死刑に處す
- 三、秘密結社を作り治安を妨害するものは死刑に處す
- 四、流氓聚衆事を滋くするものは處罰
- 五、名譽を善舉に托して集團し旨意舉動純正ならざるものは處罰す
- 六、晩の八時より翌朝五時迄一切の交通を遮斷す犯すものは處罰す
- 七、流言を放ち是非を淆亂するものは情況を查明して處罰す
- 八、匪首の踪跡を報告し因て拿捕したるものは重に從て賞與す
- 九、匪類に就きても同様賞與す
- 十、公正商民の善舉に熱心にして確に公共の爲めにするものは獎勵す

程都督の善後策

江蘇都督程德全は上海より獨立宣言を取消して以來上海に於て事務を見つゝあり南京官民の電請により八月一日先づ杜濬川を遣はして秩序の維持に當らしむ程都督は上海の戰事終了次第歸任すべしと今其善後策を聞くに左の如し

- 一、七月十五日獨立宣言以後内外變更の行政各事にして程德全の目を過ぎざるものは一切無効とす
- 二、全省軍隊中今回の叛亂に關係せざるものは核獎し關係ありたるも己に歸順したるものは追て核辦す
- 三、軍餉は上海より核發するに就き豫め兵數を通告し委員の點檢を経べし
- 四、府中の公文書類は秘書科に保存す

べし程德全諸署前の公文は上海辦公處に廻付すべし

尙八月六日中央政府の訓令に基き國民黨員の取締方法講求中なるが其訓令の内容左の如し

- 一、今回黃興背叛し各該處の國民黨人之一に附從して騷擾を希圖するもの無きや否や
- 二、各該處の國民黨機關新聞中心を煽動するものなきや如何
- 三、該省軍人中籍を國民黨に置けるもの有りや否や
- 四、黃興陳其美等諸人の逮捕に對する最後處置の法如何
- 五、右各條意見を附して復電せよ云々

全國商業會議所の決議

上海支那人全國商業會議所聯合會は四日會合を催し時局に對する意見を交換し左の如く決議せり

- (一) 亂を起したるものに對し我々商人は生命財產の保護賠償を要求す
- (二) 一省の商會は一省の商團(義勇隊)を組織し一省商業の治安を保障し亂兵の慘害を免る
- (三) 若し要求を客れれば各出來る助け之を勸告し督責すべきは督責し抵制すべきは之を抵制すべし目下亂戰尚止まず將來憲法制定大統領選舉等の各問題に皆爭論を啓き國本を動搖せしむべきに付き我々商人は最も注意しむべし云々

以上の決議は各省商業會議所に向け一々打電通告せり

魯されたる吳淞の影響

吳淞に據れる南軍は船舶の出入規則を發布し夜間の通航を禁止したるより五日以來吳淞口の燈臺は點火せざる事となり又支那汽船に對しては一夕臨檢を行ふに依り皆拘留せらるゝを恐れて出入するもの

此の際の御申込は便利にして最も好機會なり

△我が社の組織、株式會社の如く營利目的のたゞなく保險契約者は即ち社員にして會社の主權者なり

△我が社の利益配當、目下毎年四分の配當を爲し居り、生存中利益配當を受け而も萬一の場合には保險金を受取る事勿論なり

本社特選員事務 齊藤德次

生命保險界の明星

諸積立金高約契 五百七十五萬圓
 諸當配員社 八千九百圓
 準備金 九拾萬圓
 (在現本月二十年元正大滿未年九業創)

千代田生命保險相互會社

上海代理店 大倉洋行

電話(六〇八) (二八六)

△我が社の拂濟保險、我社の利益配當は毎年保險料より差引す、故に一年一年負担は輕減す共負擔担に堪へ難き時は拂濟保險として一時拂込を中止する事を得

△我が社の仕拂、我が社の基礎は最も鞏固にして仕拂は最も敏捷也、創業以來未だ貸付保險金仕拂に故障起りし事なし

△申越あらば直に贈呈す

囑托醫醫學士 秋田康世

次第に減少し招商局汽船の空しく上海に
緊留するもの十數艘の多きに及び其結
果は支那汽船に依て各地方に運輸せられ
居りたる内外貨物の販路杜絶し上海市場
が機器局紛外救はるる今日上海市場
が打撃と言はざるべからず其影響は砲
彈に依て脅されたる前途の如く激烈なら
ずとも而も吳淞口の危険長引くに於て
は其影響の更に深きを思はずんばあらず

鐵道一束

▲漢杭鐵道は機器局戰の爲め二十三日以
來運轉を中止し浙江省界の楓涇以南浙江
省內は在來の如く運轉し一時小蒸汽を以
て杭州行郵便局の聯絡を計りつゝありし
が愈々八月九日より開通する事となり
但し午前の貨物列車と午後の直行車は當
分運轉せざる都合なりと云ふ

▲吳淞鐵道は七月二十九日吳淞砲擊の通
牒ありて以來終點より一ヶ月前なる吳淞
迄運轉しつゝありしが三日鈕永建の松江
部隊が江灣停車場に至り乗車を請求せる
より運轉を停止し僅かに赤十字車を上下
せしむるのみとなれり

▲滬甯鐵道は七月二十二日以來常州南京
間の運轉を停止し去る一日試験的に直通
列車を開通に出したるが未だ途中騒然た
るより開通せず目下丹陽迄運轉し居れり

南軍の據れる吳淞砲台

▲江蘇省に於ける南軍の最後の根據地は
愈吳淞砲臺と爲た普通吳淞の要塞と云へ
ば黃浦江口の左岸揚子江右岸の深い柳の
林を繞らした土壁の一角を想ひ起すであ
らう併し軍事上吳淞の砲臺と云ふときは
數哩の上流に更に一個の堡壘あることを
記憶せねばならぬ前のは南石塘の砲臺と
云ひ揚子江の南水道を扼するもので後者
は北水道に面して北支那滿洲方面から揚

子江に入る敵船を監視する様に出來て居
る南石塘の砲臺は南支那日本よりの航路
並に北水道より上海に向はんとするもの
悉く其砲火を避ける事の出來ない恰好の
位置に据つて居りてある先月二十八日北兵
を護送して揚子江口に進入した軍艦は獅
子林砲臺を避け南水道を取て揚子江に入
り南石塘の砲臺に達しない十數哩の下流
に停泊し川沙廳より兵を揚げ一直線に西
して機器局の向例に進せしめた、かく軍
艦が南水道を取て進んで來れば先づ第一
に火蓋を切るものは南石塘の砲臺である
此砲臺は北は揚子江に臨み東は黃浦江を
控へ西及西南には吳淞溪があり北に流れ
て寶山縣城を東に包み適當な防禦線を爲
して居る吳淞溪と砲臺の距離は凡そ半哩
から一哩位ある地點にあるから互に相關
聯して一帶の背面を牽制する事が出來る
各方面の情報を綜合するに南軍は專ら南
石塘の砲臺に能る用意らしく獅子林砲臺
を除外した防禦線を構成して居る様である

▲南石塘の砲臺には元來一營ばかりの守
備兵を置いてあつた此間機器局を攻めて
失敗した南軍は殆ど全部砲臺に集まつた
から現在の兵力は凡そ三千五百名見れば
よ、此中福字營は内應の爲めに遣はれ或
は死傷逃走等の爲め實際の兵數は先づ三
千位ならん、此兵力を以て數哩に亘る防
禦線を守備する事は甚だ困難と見ねばな
らぬ併し攻撃に鈍い南兵と雖も愈々昔水
の陣を布き巨砲の掩護に依て防禦線に就
けは攻撃前大なる抵抗力があるだらう之れ
に攻撃前進の猛烈な北兵を配するは吳淞
の包圍戰は必ずや慘憺たる激戰を演出す
るに相違ない、南軍は南石塘の砲臺には
三千石の米と多量の彈藥を貯藏し大砲は
少しく舊式なれども軍艦の主砲八吋に對
し十二吋砲を有つて居る今南北兩砲臺の
威力を窺ふに凡そ左の如くである

南石塘砲臺 十二吋砲 四門 九吋砲 四門
六吋砲 二門 六吋砲 二門
四、五吋砲 四門 四吋砲 二門
獅子林砲臺 十二吋砲 二門
九吋砲 四門
六吋砲 二門
四、五吋砲 四門 四吋砲 二門
六吋砲 二門
四、五吋砲 四門 四吋砲 二門

右の中或人の説に據れば大砲は皆舊式で
あるが六吋砲の如きは三百六十度の廻轉
自由で背面の防禦にも用ふる事が出來る
南石塘砲臺の守備兵は五日頃から吳淞
に沿つて壘壕と掩堡を二列に築いて居る
と外字新聞にも見た生命掛けの戰をす
るに自分から穴を掘つて其に入る事は迷信
強い支那兵の尤も思ふ所であるが矢張昔
に腹は換らねぬと見ゆる、獅子林砲臺は
上述の如く極めて堂々たるものであるが
愈々南軍が放棄する事すれば北軍に取
て大なる幸で北水道方面の行動が自由
になるし若し又南軍が兩砲臺を保つとす
れば餘程用心せぬと哀の得意な離間中傷
に依て同士打ちを演ずる様にならぬとも
限らぬ何れにしても戰爭は觀物である

▲軍艦は八月二日午前四時廿分より第一
回の砲撃を實行し砲臺に向て對敵宣言を
爲すと同時に一種の威力偵察を敢た、先
づ海折より一發を放ち順次他の三艦より
發砲し砲臺は之れに八發を應へ互に何等
の損傷なく彈丸は何れも中間の水中に落
ちて盛に水煙を擧げた、其後二三回軍艦
より砲戰を挑むだが皆な遠距離の攻撃で
ある軍艦は依然吳淞の下流十三哩の地
點に假泊して居る第二回は二日夜九時三
分は三日午前一時より四時に至り四回は
四日午前七時半より緩漫に九時頃迄行は
れ第五回は七日午前十時頃軍艦から十數
發を送つた照準は次第に正確となり此日
二三回は確に砲臺に命中し又四日砲臺
より發せる一彈の如きは海折の艦部に命
中しそれより海折は船部の砲塔を使用す

事となつたさうであらう
▲北軍の水陸攻撃の準備は着々進捗しつ
つありて五日には蘇州河を瀾り開北に兵
を進めたる事を計劃したが領事團の拒絶す
る所となつた北軍は増援兵を合して約四
千更に二千の兵が來る事になつて居る砲
臺の南軍は短兵急に水邊より迫らるるの
恐れ七日布告を出し夜間ラン、チの砲臺に
近くものは何人の所有たるを問はず發砲
する事を告示し了別項記載の如く守備兵
の内訌と言ひ次第に實力攻撃の前提とし
て金錢の戰爭も猛烈に行はれつつあるよ
り察すれば吳淞の包圍攻撃も遠からず開
始せらるゝであらう

吳淞に於ける南軍の内訌

劉福彪の福字營敢死隊は機器局の攻撃線
より吳淞に送られ二十七日頃より吳淞の
守備に就き砲臺聯絡より取外せる四門の
大砲を携へて沙河河口方面を警戒し數日前
より愈吳淞砲臺の背面防備の任に就く事
となりたるが之より先き劉福彪は北京政
府より兵餉として十萬元を贈られ各兵に
五十元宛を賞給し北軍の爲めに南石塘砲
臺の乗取りを計劃し砲臺司令官居正の知
る處となり六日午後二時突然砲臺より攻
撃せられ交戦一時間其營所たる中國公學
粉粹せられて負傷者續出し二百名の捕虜
と七十餘名の死傷を出し他は全部逃走せ
り劉は戰死せりと云ふも行衛不明なり
在上海中國赤十字會は救護班を組織して
吳淞に派遣中なりしが同夜負傷者數十名
を上海の同病院に收容せり

日本郵船株式會社

京 東 本 日 社 本

噸 萬 二 十 三 數 噸 總 ● 隻 餘 十 八 船 汽 有 所

| | | |
|----------|--------|------|
| 上海出帆 | 歐洲行 | 二週一回 |
| 米國行 | 二週一回 | |
| 香港行 | 一週一回 | |
| 日本行 | 一週二回以上 | |
| 其他日本各港 | 濠洲印度 | |
| 朝鮮支那等諸航路 | 有 | |
| 日本郵船會社 | | |
| 上海支店長 | | |
| 石井 徹 | | |

南滿洲鐵道會社
大北汽船會社
大北鐵道會社

店 理 代

伊藤洋行

上海福州路十五號
電話三三九八

伊藤洋行

漢口湖北路十九號
電話二二八八

營業種目

● 輸入 綿糸 綿布 雜貨
● 輸出 綿花 肥料 絹綿麻布

本支店

大阪、神戸、京都、東京、一之宮
京城、上海、漢口、馬尼刺

● 高碑店染格莊周

漢字新聞論調

中國の將來を測る(神州日報)

常人の知識を以て中國の將來を推測するは實に容易の業にあらざれば今日この現象を以て云へば實に恐るべきなり...

今日國民は内を安じ外に當り富強の基を立つるには雄才大略の總統にあらざれば不可なりと云ふ此心理は最も偏頗にして...

中國を禍するものは必ず此言なり(時事新報)

武漢發難以來我國は日として調停の中にあらざるなし...

今日この内訌の如き余く之を證すべく口には國民利福を唱へながら兵連禍結の状態に導き人民を苦めり要するに此苟且心を除く...

今日國民は内を安じ外に當り富強の基を立つるには雄才大略の總統にあらざれば不可なりと云ふ此心理は最も偏頗にして...

徐州鎮守使張文生代理

任徐州鎮守使程建劍代理

任九江鎮守使代理

任陸軍少將衛

任陸軍少將

民國憲法大綱

對支那社會黨の解散を命せり

授陸軍上將

南京再び獨立

其後杜淮川を迎へて秩序を維持せる南京の第一師八師團兵は給料不渡りの爲め...

遺難之東亞同文書院

去月二十九日機器局防守の北軍砲彈によ...

諸大家賣藥各種

美容化粧品各種

工業用藥品

玻璃藥瓶各種

醫療用藥劑

醫療用器械

理化學用藥品

の經營者たる同文會本部にては本月一日臨時幹事會を召集し善後策に關し協同する所あり、一方當地に於ては去の四日福開教授等宗方氏白岩氏其他書院關係者を請じて善後策を議し同文會本部に再致し來る新學期までは授業開始には差支わなき方法を講じつゝあり聞か所によれば目下三年生は内地各省調査旅行の途に在り歸國は十月前後にして二年生は殆ど休暇歸國中なれば差支り當地租界に假令を借り入れ新校舍造成まで所にて授業を爲し一方新入の一年生は時に今年は召集期を九月二十一日とし當分長福縣大村町に校舍を借入れ上海にて校舎の準備成るまで同地に於て授業する由なり

又同院教職員諸氏及家族は目下佛租界巨額道路四二十五號に一家を租し先日移轉し同時に殘留學生も收容同居し居り情形慘酷極も避難民の如し、我等は同院教職員及學生諸氏が兵火の厄に遭ひ而かも窮困に處し平然不屈の態度を有しつゝあるに對し同情と敬愛の念を禁じ取らざるなり

同院目下の事務所は香港路五號福開教授の法律事務所を以て之に充て福開教授土屋寮監、眞島教授、品川校醫等日々出席して事務を視つゝあり

滬友同窓會の盡力 東亞同文書院關係者及出身者によりて組織されたる滬友同窓會上海支部は書院今回の遭難に對して頗る同情を表し去る九日夜當地日本人俱樂部にて同會臨時會を開き書院の善後策及書院遭難者に對する慰問等の件を議し母校將來の爲めに盡せし事を決定したりと

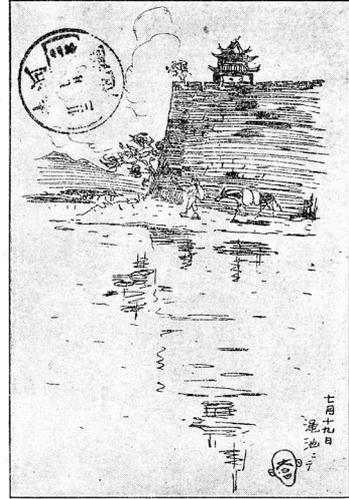
支那實業銀行 四千五百萬フランの資本にて創立されしバンク、リンドストリユ、ド、シースは本年七月五日巴里に於て設立せられ、法律上の手續を終れり、株主總會に於て取締役を選舉したり、即ちアンドレ、ベルテ(取締役會長)リヤオット、コン(副會長)ユジョニ、アンリ(副會長)サリ、リチャード、オード、イ、ジョル、レ、ド、セ、ン、ウ、イ、エ、ボ、ル、シ、オ、タ、ド、伯、爵、ア、ウ、イ、エ、ス、ビ、マ、ツ、セ、ド、ウ、イ、ホ、ア、チ、フ、レ、ブ、ウ、ル、ス、伯、爵、ゼ、ラ、ト、ド、ガ、チ、エ、ル、ペ、ル、シ、ヨ

1. チャレリス、ツイクトル、而して其の本店を北京に置き、其の登記されし巴里の店はパリ、ブルッヅ、アル、ハクススマ、第十三號に置き、其の總支配人はベル、ノツテ氏とす

招商局汽船の國籍變更 動亂の結果支那籍に在る船舶の支那沿海殊に長江及び内河の航行は危險の恐れあるを以て當地招商局にては該局の長江航路使用船舶の一部を英國國旗の下に航行せしむべしとの國策ありしが是は愈々事實となり本週中國船變更の手續を了し英國國旗の下に安全の航行をなすべしと

上海鎮守の戒嚴令發表 去る

禹城鴻瓜



禹城鴻瓜 七月九日 池田

六日の國務院電に接し鄭鎮守使は新たに上海警備地域司令に命ぜられたるを以て浦東を警備區域となし十四個條より成る戒嚴規則を去る八日發表せり

海關貨幣兌換率 上海稅關の發表せる八月の各國貨幣と海關兩の換算率は左の如し

一海關兩 壹圓四十八錢 一ルビ二六
一元 壹圓五〇 三佛郎八〇
三馬克〇八
一海關兩三六
六海關兩六四
一弗(金)

河南運池より 出發以來頗る元氣にて昨日洛陽の西百六十里ばかりなる運池に到着仕候まだ旅行初故にや百五六度の炎天をテラテラやする事が甚愉快に候來月初旬西安迄やつける豫定に候

福建汀州府上抗縣にて 潮州(廣東)出發後十八日、潮州村生四拾清里上流左岸に位する大埔に差仕候當地の人口は二三千位に過ぎず候、只民船の碇泊に過ぎざる。一の漁村の如きものには有候本年(數日前ま)はベスト流行致し二百五十人余死亡致し由に候、縣知事は下流三河へ避暑病氣を恐れて出遊中に石城に空雲の應に候

洛陽を出て、行程七十清里宜陽城に着けるは月死敗壞を蒙らし城門已に崩され警戒甚だ嚴也、門前に柳泉にて前日晝起れる土匪三名梟首され在り候、灣在一日、廿日韓城鎮に宿す同夜土匪八十名洛水の北岸に起れりて護衛兵運走す、昨夜水軍城衙門に投じ只今より盧氏縣に向ふべく候、三日にて至るべく候、此の附近人民の生活程度至つて低し人民は平常賊の害を恐れ常に城壁を高くし自ら衛り居り候(七月二十一日)

陝西省潼關より 吉村生 潼關縣より靈寶縣、陶縣に至る、一帶に棉花有候も六月中降雨二十日に亘り候て生長充分に無候、近日は炎天續きにて黃河の水も漲れたる程に候、函谷關を越へ秦嶺の峻嶒なる山容を賞し、昨晩潼關に着致し候、此地の城門は午後八時に開かれ居り候、近來謠言非常に激しく警戒も亦嚴重に候、當地全人口の五分の一は或は軍人には非ざるかと察せられ候、拂曉などは喇叭の聲四圍に起り爲めに滞在一日の骨休めも朝寢も出來不申間口候

河南省永寧にて 保木本生 月二十一日縣警を發し六十清里を祁門縣城へ到着致し候、祁門縣も縣警と同

祁門縣より 高山生 安徽省徽州府祁門縣 月二十一日縣警を發し六十清里を祁門縣城へ到着致し候、祁門縣も縣警と同

此の邊一帶マツチは日本物は見當らず山西太原府製の黃鐵マツチが大部分を占める者も少なからず候、ランブに至りて

法界呂班路三三三
純牛愛
良乳光
社光愛
電話貳壹七五番

アサヒビール

大日本麥酒株式會社
代理店三井物産會社

開始せられんとして此の動亂あり無取引となりし次第なるが、内地の農産物何れも頗る良好の狀勢にあり、たゞ金融の徒らに緩漫なること、何分にも市場に持出す事不能なる有様なるが爲め如何とせざる能はず。若し今日の狀態が更らに延長せば農産物生産者の持態がされなる恐れありと云ふ、昨今招商局の船頭艇に上海に出入し能はざる爲め、その所有船の一部を英國籍に移すべしとの事なり、又た上海に出入せる日本との輸出入貨物は動亂後平素の三分の二減となりしこの事に、うれ丈日本人一般に減少せる次第也其の結果日本商人一般に日本の汽船の積荷減の爲め船會社も頗る此の動亂により影響を蒙り居れり、

▲外國棉 依然下押の狀勢にあり、リヴァプール市況は現物六片四三、十一月物十二月物五片九〇、ベンガル物及び埃及物も下落し前者は五片四分の一、後者は九片三〇を唱ふ、紐育市況は現物十二月物十一月物十五仙とされり、本週初のには十月物九十八仙十二月物九十九仙を唱へ居たり、蓋し米國棉作は昨年比し良好の模様にて八月の棉作狀況は昨年比し七十六、五を唱へしもの本年は七十九、六と云ひ、又たミス、ジャイルスの報告によれば八十一、八又たジャナル、オブ、コムマースによれば八十一、一とあり何れも良好の徵を報せざるはなし爲めに前記の下落を見たるなりとの事なり

▲支那棉 品物少しも動かさず、云ひ値段を記せば通州物太食物二十四兩、上等機械線二十二兩二匁、北市種十一匁六十兩、南市種十匁六十仙なり、綿作は其の後の狀態頗る良好なり、週中日本向輸出高六百七十八担にして各地向輸出總高四千三百二十七担ありたり

▲日本綿絲 週中取引高六百俵あり値段は頗る弱氣にして一俵につき二兩安の有様なり、即ち十六手物百四兩乃至百十四兩二匁五分、二十手物百十兩乃至百十七兩也、最近入電三品相場は當百三十九圓三匁中百三十七圓三匁先百三十三圓九十匁とあり

▲印度綿絲 週中約千俵の取引ありしとの事なり、多くは支那人の買入れしものを更らに割安に賣放したるものなりとの事なり、現物の取引としては四百十五俵ありと云ふ、即ち十手物が牛莊及び青島に賣れたる次第にして其の値段は八十七匁二分乃至九十四匁の安値なり、孟買にては棉花の相場下落の爲め市況軟弱なるも約一萬俵此の二週間に香港及び支那に向け輸出せらるべしと云ふ週中輸入高は彼阿汽船デルタ號四千三百三十二俵を齎したり、又た同船は孟買棉五百六十八俵をも輸入したり

▲支那綿絲 週中取引なし、故に市況を見るにはバンドル市況に據るの外なし、バンドル市況は十手物九十一兩七匁五分乃至九十六兩二匁五分、十二手物九十二兩七匁五分乃至九十九兩二匁五分、十四手物九十四兩七匁五分乃至百一兩七匁五分、十六手物九十七兩二匁五分乃至百四兩二匁五分、二十手物百七兩二匁五分乃至百一兩七匁五分を唱ふ

▲倫敦銅相場 本月六日の入電は十六磅台に下落せるも八日に至り二磅以上騰貴し尙ほ引續き手堅き傾向を示せり今本月六日より八日に至る相場は如左

G.M.B. 電氣銅 一〇片
六日 六六、一七、六六、九一、一〇
七日 六七、一〇、〇七、〇五、〇
八日 六八、二、六七一、五、〇

▲雜穀肥料 此地に於ける南北兩軍の戦闘は其後休止の姿にて目下小康を保ちつゝありと雖も吳淞砲台は依然南軍の孤守せる處にして鎮江亦騷擾せるなど人心尙安からず之れが爲め落ち付きて商賣するものなく加ふるに地方には匪賊蜂起し買ひ出しに赴く事能はず田舎よりの廻りも寥々、現物のみ少許りづ、取引行はるゝのみにして先物は全然行はず現今相場の建ち居るもの左の如し

上海蠶豆 三弗二十五仙
在荷莖干担 百六十八兩
葉付袋ナシ種粕 百七十八兩
葉ナシ袋付同 百七十八兩
在荷ナシ

▲雜貨 雜貨商は他商と異なり自然支那銀行の發行せる支票を受授するの已むべき習慣なりしかば今次の動亂の爲め此等の支票全く不通となり不撻打撃を蒙り今暫らくは取引望み難きなり

▲石炭 日本に於ける炭況は依然強含みにて賣物なき状態にあるが當上海に於ける炭況は全く杜絶の有様において更らに新商を見ず但し南京に於て石炭需要ありと稱せらるゝも炭商は何れも持重し

浦口大豆 二兩八匁五分
在荷五千袋

上海口吳淞路〇一五〇
仁壽堂大藥房
電話四〇七五番

天下一品
廣光堂大藥房
文路第三三〇號
店門口山



敢て手を出さざるなり
今七月十日より三十一日に至る炭輸入高を舉ぐれば總計七萬六千八百七十噸にして内三井炭の分二萬二千九百七十噸、他社炭の分五萬三千九百噸に上る、各炭内譯は左の如し

▲三井炭 一〇、五〇五屯
三池炭 二、九七四屯
筑豊炭 三、三三〇屯
杵島炭 一、六五〇屯
長崎炭 四、五三一屯
旅順炭 二〇、三七〇屯
▲他社炭 三、五六〇屯
長崎炭 二、三五〇屯
唐津炭 一、八七〇屯
開深炭 二、〇〇〇屯
本溪湖炭 六、七五〇屯
カージフ炭

▲砂糖 上海の戦亂以來全く商業停止の裡にありし糖界は今や最大需要期たる仲秋節を目前に控へ乍ら猶未だ取引なし、只浙江省方面が比較的平穩なるを以つて寧波を中心として此方面への送荷は極少數乍ら弗々始まりたるも之れとて云ふ程の事なり、長江方面に至りては全くなし、されど前述の如く需要期の事とて幾分はと安心出来得れば最も安全なる筋へは送荷始まるべく、上海も漸く平穩に向ひつゝある今日なれば少數の動荷は遠からず始まるべき見込なるも需要期相應の動荷は到底望まれ間敷思はる

▲海産物 ▲昆布 在荷二萬五千手持筋は荷透しに焦慮し居り最近一二千俵手合あり相場上三四匁、二三三匁、下二匁七匁▲鰯 在荷多からず相場十五兩五匁▲海參 大八十五兩、中六十兩、小三十二兩品待▲貝柱 小五十六兩乃至五十七兩▲干蝦 上二十五兩次二十三兩

●本號に限り一部賣二十仙

製造元 帝國礦泉株式會社
輸入元 永井分行
電話 一五八四

三平野水
ツサイター
矢 ジンジャー
オレンヂ

虹口吳淞路 宮本商店 (電話三五九七)
虹口市場前 松本商店 (電話三五五)



編輯兼發行人 上海中法大藥房 電話二七三 佐原篤介
印刷所 上海中法大藥房 電話二七三 蘆澤多美次
發行所 上海中法大藥房 電話二七三 春申社
電話三〇八三

本紙定價(前金)
一部 銀十仙 支 金十
一ヶ月部 銀四十仙 支 金十
半年部 銀二百二十仙 支 金十
一年部 銀五百仙 支 金十
(共稅郵) 本 日
振替口座 福岡四七〇五番
支那上海 春申社 佐原篤介
大正二年八月十一日

廣告料
本紙掲載廣告の特金は行數の多少掲載期間の長短に依り特に御相談可致候御用の方は端書又は電話にて御一報被下度候
文部省二七(日本堂)轉交
週報上海
發行所
春申社
(電話三〇八三)

歐亞聯絡最捷交通線

◎急行列車ハ最新式ノ寢台車
一等車及食堂車ヲ聯結致居候

○大連長春間急行列車

大連發 月、水曜日午後三時二十分 莫斯科行
土曜日 午後三時二十分 聖彼得堡行
長春着、火、木、日曜日午後六時五十分

○滿鮮直通(釜山長春間)急行列車

釜山發 日、火、金曜日午後九時五十分
安東發 月、水、土曜日午後四時四十分
長春着 火、木、日曜日午後六時五十分

○長春大連間急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時
大連着 同 午後十時二十分

上リ

○滿鮮直通(長春釜山間)急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時
奉天發 同 午後二時四十分
釜山着 火、木、土曜日午後七時五十分

○大連發、水、土曜日及大連着、水、金曜日急行列車ハ上海航

路汽船ニ接續致候

| | | |
|----|------|-------|
| 歐大 | 哈爾濱 | 二十四時間 |
| 亞連 | 莫斯科 | 十日間 |
| 間連 | 聖彼得堡 | 十日間 |
| 行 | 里迄 | 十一日間 |
| 程 | 敦迄 | 十二日間半 |

鐵道旅館

ルテホトマヤ

大連、旅順、奉天、長春ニアリ
設備完全 食物精選
大連市外星ヶ浦ニハ海岸ほてるアリ

(YAMATO)號畧報電

大連上海航路

使用船

神戶丸 二八七噸
西京丸 二九〇噸

兩船共船内無線電信局アリ

大連發木、土曜日正午 上海着土、月曜日午前

上海發月、水曜日午前 大連着水、金曜日午前

上海大連共ニ棧橋繋留

速力十四海里 航海時間四十二時間

(MANSEN)號略報電

撫順炭

大連、營口、天津、芝罘、

上海、香港、新嘉坡、彼南其他東洋諸港ニ於テ常

ニ潤澤ナル貯炭ノ準備アリ

南滿洲鐵道株式會社

本社 大連市東公園町 ○支社 東京市麴町區有樂町
(MANTETSU)號略報電(番九一二連大)金貯替振